

# 会 議 録

会議の名称	令和7年度 第2回 池田市社会教育委員会議		
日 時	令和8年1月28日(水) 午前10時00分～12時30分		
場 所	池田市立駅前北会館 5号室		
出席者	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>《委 員》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 藤原 一秀 ◎</li> <li>・ 小倉 嘉夫 ○</li> <li>・ 中路間 美貴</li> <li>・ 布谷 知夫</li> <li>・ 古田 刺男</li> <li>・ 福島 輝彦</li> <li>・ 佐藤 秀輝</li> <li>・ 田中 晋作</li> </ul> <p style="text-align: right;">計 8名</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>〈事務局職員〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 藤井教育長</li> <li>・ 安原教育部長</li> <li>・ 前野生涯学習推進室長兼社会教育課長</li> <li>・ 齋藤地域教育課長</li> <li>・ 家門中央公民館長</li> <li>・ 塚原図書館長</li> <li>・ 林石橋図書館長</li> <li>・ 細谷歴史民俗資料館長</li> <li>・ 國安社会教育課主幹</li> <li>・ 田上社会教育課主任主事</li> <li>・ 福島地域教育課副主幹</li> <li>・ 三角地域教育課指導員</li> </ul> <p style="text-align: right;">計 12名</p> </td> </tr> </table>	<p>《委 員》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 藤原 一秀 ◎</li> <li>・ 小倉 嘉夫 ○</li> <li>・ 中路間 美貴</li> <li>・ 布谷 知夫</li> <li>・ 古田 刺男</li> <li>・ 福島 輝彦</li> <li>・ 佐藤 秀輝</li> <li>・ 田中 晋作</li> </ul> <p style="text-align: right;">計 8名</p>	<p>〈事務局職員〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 藤井教育長</li> <li>・ 安原教育部長</li> <li>・ 前野生涯学習推進室長兼社会教育課長</li> <li>・ 齋藤地域教育課長</li> <li>・ 家門中央公民館長</li> <li>・ 塚原図書館長</li> <li>・ 林石橋図書館長</li> <li>・ 細谷歴史民俗資料館長</li> <li>・ 國安社会教育課主幹</li> <li>・ 田上社会教育課主任主事</li> <li>・ 福島地域教育課副主幹</li> <li>・ 三角地域教育課指導員</li> </ul> <p style="text-align: right;">計 12名</p>
<p>《委 員》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 藤原 一秀 ◎</li> <li>・ 小倉 嘉夫 ○</li> <li>・ 中路間 美貴</li> <li>・ 布谷 知夫</li> <li>・ 古田 刺男</li> <li>・ 福島 輝彦</li> <li>・ 佐藤 秀輝</li> <li>・ 田中 晋作</li> </ul> <p style="text-align: right;">計 8名</p>	<p>〈事務局職員〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 藤井教育長</li> <li>・ 安原教育部長</li> <li>・ 前野生涯学習推進室長兼社会教育課長</li> <li>・ 齋藤地域教育課長</li> <li>・ 家門中央公民館長</li> <li>・ 塚原図書館長</li> <li>・ 林石橋図書館長</li> <li>・ 細谷歴史民俗資料館長</li> <li>・ 國安社会教育課主幹</li> <li>・ 田上社会教育課主任主事</li> <li>・ 福島地域教育課副主幹</li> <li>・ 三角地域教育課指導員</li> </ul> <p style="text-align: right;">計 12名</p>		
欠 席 者	なし		
傍 聴 者	2名		
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会教育関連事務分掌及び事業と各課・館が果たすべき役割について</li> <li>2. 現在の「池田市第2次教育振興基本計画 推進プラン」について</li> <li>3. 委員研修（山口県における少子高齢化の事例について）</li> <li>4. その他</li> </ol>		
配 布 資 料	<p>資料1. R7実績及び推進体制</p> <p>資料2. 社会教育委員会議での委員助言の共有にかかる調査</p> <p>資料3. 委員研修（山口県における少子高齢化の事例について）</p> <p>資料4. 社会教育法（社会教育委員関係分抜粋）</p>		

## 議 事 経 過

### 開会

教育長、議長あいさつ

**事務局** この会議は条例により公開となっており、本日、2名の傍聴希望者がいる。(議長に伺って)では、傍聴希望者入室していただく。

—傍聴者入室—

### 議事1 社会教育関連事務分掌及び事業と各課・館が果たすべき役割について

**委員** では資料に基づいて進めていく。

わたしは社会教育課の大きな役割として、社会教育全体のコーディネーターとしての、全体を見渡すという性格の強い課だと思っている。

**委員** 石橋南小学校では素晴らしい取り組みをされており、その管轄は？

**事務局** 地域教育課で地域学校協働活動による取組の一つ。

**委員** 活動の概略を少し説明してもらえれば。

**事務局** 石橋南小学校では2か月に1回、PTA、キッズランドなど、また教師も一部参加いただきながら、わくわく土曜という、土曜にイベントをおこなっている。その中で、団体や地域の商店街、大阪大学の留学生などが参加し、水遊び、昔遊び、地域の人や池田出身の元宝塚歌劇の人を招いて演劇、地域の歌を作成するなど、様々な取組を地域ぐるみでやっている。

**委員** 現場を知る人が取り組んで、教育委員会の人が学校で居場所を作るという、非常に優れたモデルケースだと考える。そういう人材を育てることが大事。

**委員** 他の学校ではどうなのか。

**事務局** 他の地域からも良い取り組みであると、自分たちの地域に持ち込める要素がないか見学があるとか、地域同士の話し合いがあるとか、接点がある。

**委員** 地域の方が積極的に色々やっただけで、地域に格差があるのでは。そういうところをまとめていく部署というのがあるのか。

**事務局** 先生の参加もあるが、地域によっては担い手不足という課題を感じているところもある。

**委員** 学校教育でクラブ活動というのは、子どもの主体性を重んじ、仲間と共に作り上げていくという、教育になかでも特異な分野で、先生方が支えてこられて、こういう文化はすごく長い期間を経て、そういう教育活動を経て今日に至っている。そういったものを大きく変えていこうという、そうすると、今までの積み重ねで財産として残していこう、残していかななくてはならない部分と、時代とともに変えていかななくてはならない部分がある。その中で、今後、学校からの指導主事、教員が(社会教育担当)課に入る、そういう計画というのがあるのか。

**事務局** 社会教育担当課に指導主事がいないのは、今後の検討事項かと思う。

**委員** 水月・五月山児童文化センターの耐震はどうなっているのか。

**事務局** 現状、社会教育施設だけでなく市内の施設の再整備計画になかで計画中。

**委員** 以前、委員の方から、留守家庭児童会の子どもたちへの指導内容について、統一性とか交流などの質問があったが、その後、経過としてはどうなっているのか。

**事務局** 留守家庭児童会の指導員研修を年10回程度行っており、その中で、集団生活の

取り組みの仕方など、ある程度、統一性を図りながら取り組んでいるところ。

**委員** 他の現場の声からすると、市民ニーズはたくさん受け入れてほしい、しかし、体制を作る方が追い付いていない。だが、事務局からの話でかなりの進捗が見られたかなと思う

**委員** 配慮の必要な子どもについてだが、学校との連携はどうなっているのか。

**事務局** 医療的ケアの対応について、学校と連携し、養護教諭に対応してもらったという事例があり、他にこども家庭センター案件などは、学校と逐一連携してやっているところ。

**委員** 教育の連続性という意味で、学校へ行って、留守家庭に行き切れるのではなく、学校と定期的に連携を持たれるなどして、子どもたちが常につながって、学校と留守家庭の活動につながっていくように、これからもよろしくお願ひしたい。

**委員** ある小学校では、小学校生徒指導加配というものがあり、そのポジションの者が生徒指導だけでなく月に1回とか留守家庭の子どもたちの様子を伝えたりとか、運動場の使い方の見守りとか、そういう連携をしている。

**委員** 中央公民館についてはいかがか。

**委員** 社会教育施設では限られた職員で頑張っていると思うが、中央公民館の講座など対象者が市内在住在勤など限られる。しかし、こういう時代になると、自治体同士の連携が重要になってくる。例えば中央公民館で講座受講者を市内に限るのではなく、各地域の特性を前面に出して、自治体が連携し関連人口を動かしていく、人を動かす仕組みを作らないと限界にきているのではないかと考える。各自治体それぞれが持っている特性を選択・集中し、周辺市町村を一つのエリアにして、北摂地域で協議会というものがあると思うが、その中に社会教育のセクションを作っていくとか、そういう動き、情報共有をしていくだけでも違ってくる。そうすると、池田市に住んでいても豊中の情報を知ることができるとか、箕面市で自分の興味のある講座を市外の人が受けることができるとか、そういう（市町村の）枠をそろそろ外してやっていいのではないか。これから職員数が少なくなる、予算が少なくなる、仕事が増えるなかで考えていかなければならないことだと考える。

**事務局** まずは近隣市の状況も聞いてみて池田市でどうしていくか、考えてみたい。

**委員** 自治体同士の情報交換、ネットワークというものはあるのか。

**事務局** 大阪府の社会教育部門の課長会議とか研修会などがあるが公民館だけというものはない。

**委員** 歴史民俗資料館など単体で展示などその地域だけで動くのは不可能なので、各自治体施設の情報の箱というか情報共有のできる場所があれば、講座の内容、講師など今行われている講座の状況が一発でわかる。情報共有できれば、相乗効果が得られると思う。

**委員** それは大事なことだと思う。

**委員** 外国からの来客に昔の蔵や着物を着せる機会があったという。そろそろ市民が文化財というものの貴重さを認識し始めた。先日窺った方は古民家をリノベーションした。そういうことで、歴史民俗資料館の位置づけというのはすごく大事になってきている。

**委員** 公民館活動というものは、社会教育の要を担っているところが多い、やはり社会教育は公民館が中心となって市民の中に浸透して行って活動して行っていると、社会教育の研修会などで聞く。公民館の職員も研修会に参加して情報を得てそれを切っ掛けとし、

池田の中で考えるのは限りがあるので、近隣との連携を含めた公民館活動のあり方、視野を広げて、社会教育を充実してもらいたい。

**委員** 公民館というものは地域の人が集まって、アドバイスを受けながら色々な活動をして自主的な活動につながっていく、住民自治につながるような活動につながっていく目的でつくられた施設というのがもともとのスタートであった。

公民館で色々な事業をされていると思うが、その参加者が集まって自分たちで何か活動していくという、そういうアドバイスはしているのか。

**事務局** 公民館では登録グループの活動が続いている。そのグループによるふれあい活動で作品展やお茶会などをやっている。

**委員** スポーツでは豊能地区3市2町で集まりがあり、話し合いや研修会など活動をしている。

**委員** 近隣市では公民館講座に参加したグループが1年で終わるのではなく、自分たちでやりたいこと、自分たちで呼びたい先生を呼んで公民館を利用しながら、公民館とは離れて自分たちで活動を運営している。そういう人たちが公民館を支えている。

**委員** ある市では、講座があって1年で終わるとそこで解散するのではなく、そこからグループを作って、かならずしも専門的なことをやるわけでもないが、集いというものがきっかけとなって市民の輪が広がっている。講座が終わればそういうものを作らしている。そこに参加している人は非常に満足している、参加する意欲もあると聞いている。

**委員** 図書館についてはいかがか。

**委員** DXについて、図書館は最先端をいっているなあという気がする。スマホで図書館カードの表示ができたとか、池田市の行政のなかでトップではないか。いろんな施設の予約などもリモートでできるよう図書館のように進めていってもらえればと思う。公民館もQRコードでできるようになった。ありがたい。

**委員** 図書館について、利便性の良いところできると、こんどは蔵書の管理が問題になると思う。これから紙の本の役割というのがどうなっていくのかということもあろうかと思うが、蔵書というものをどのように管理されていくのか。デジタルではなく紙の本の方が安心なのだが、そうするとどんどん蔵書が増えていってしまう。

**事務局** 新しい本がないと図書館としての魅力がなくなり、利用者にも通ってもらえない。電子図書は1冊あたりが高いため、紙の図書がメインになっている。劣化、古い情報の図書の廃棄は計画的に行っている。また、相互貸借として池田に無い本は大阪府の図書館から借りることができるので、そういうことを活用しながら図書館運営をしている。

**委員** 歴史民俗資料館についてはいかがか。

**委員** 2月号広報で、池田市に対する子どもの希望を聞くアンケートがあり、池田の歴史のわかる場所がほしいというのがあり、自分たちのマチを知りたいのだと思った。歴史民俗資料館にいったらわかるのだけれども、今の資料館は歴史好き、お年を召した方を対象にしていると言わざるを得ない。事業報告書などを見ると博物館としては総合的にされていると思うがターゲットは大人、それも高齢で歴史好きの人。しかし、子どもを連れた人がふらっと寄って楽しむというようにはなっていない。そういう方面でもっと意識してやっていると、池田市の中で支持されなくなる。民具の展示も今と昔の道具を比較して展示しないと子どもには理解できない。自分たちのマチも理解できない。いろいろ工夫して子どもでも参加できるような展示を考えられたらどうかなと思う。キャッチフレーズだけでも違う。

少し前に博物館法が改正された。それに伴い博物館を作る望ましい基準が作られ、その博物館の望ましい基準に「設置者の役割」、「館長、学芸員、その他職員の役割」がだされた。これは博物館の現場のことではなく事務局の問題になるのであり、この基準を市長部局にも示し、望ましい基準に近づけるよう努力されたら良い。

**事務局** 子どもをターゲットにするところが今まで弱く、全体的に堅苦しいのが課題。キャッチフレーズなど、家族連れがふらっと立ち寄れるような工夫をしていきたい。

## **議事 2 現在の「池田市第 2 次教育振興基本計画 推進プラン」について**

**委員** 議事の 2 に移る

**委員** 活動指標、いわゆる KPI について、「数」になっているが、基本コンセプトがウェルビーイングになっていて、受け手の満足度指標が見当たらない。加入率とか参加数などに偏っているのではないか。満足いただけているのか、というところの評価の物差しが異なるのではないか。

**委員** 推進プランは、今後、修正されていくものと思う。

**委員** 活動指標の評価基準の表現というのは難しい。数字であれば分かりやすいのは当然のことだが、数字が独り歩きしてしまい、本来とは別のところで首を絞めてしまう結果になることを考えなければならない。今の社会ではいろんなところでウェルビーイングと言われるようになって、社会教育全般や博物館、学校などでもウェルビーイングということが意思表面に出てくる。それで参加者の感想、満足度を測らざるを得なくなるのかもしれないのだが、本来、主体者側の持っている意思表示といったものが何らかの形で出せるような工夫ができないものか。一方的に参加者や利用者の判断で、体系的に組み上げられている方向性というものが、その一過性の形で終わってしまうことにはならないような工夫がある。言い方が難しいのだが、本来、池田市教育委員会が目指すところの底流というものを盛り込めるような推進プランを示すべき。

**委員** 「歴史民俗資料館の充実」とあるが、違和感がある。歴史文化遺産の活用というのは当然であるが、広くミュージアムとして施策①②に溶け込むという感じであっても構わないのではないか。歴史民俗資料館の位置づけ、社会教育全体のなかでの位置づけというか、文化財や歴史の保存場所というだけではなく、もう少し違う部分というものがあるのではないかと思う。市全体の将来方針という中で整理があってもいいのではないか。

**委員** 大事なことは、各課、館が役割を持って、ビジョンというか、ウェルビーイングという大きな池田市の目標に基づいて、各課、館でどういったことができるのかそういったものがあると、生き生きとした活動ができる。「これをやって」と線引きで出されたことをやっていくのではなく、課、館が持っているビジョンを持って取り組んでいただいたら、より充実していくのではないか。新しい取り組みができる。

これで、案件 1, 2 が終了。

## **議事 3 委員研修 「山口県における少子高齢化の事例について」**

われわれの生活の中で、人口減少をどのように捉えていったらよいか。今、山口で起きていること、今後、池田市で起きることを考えていきたい。

社会の発展には人口が非常に重要な役割を果たしている。人口の増加に伴って、需要や生産性の向上などで社会が発展していく。2000年ごろから、人口がどんどん減っていくことが色々なところで言われ始めて、多くの研究者は、この人口減少は自然減であると言われてきた。人口が自然減に転じると、有力な説ではあるが、施策的なことを行

わない限り絶対回復しないと。それは限りなく0になると。ある研究者は2017年から2065年の約45年の間で3850万人口が減ると予測された。しかし、コロナ禍で急激な人口減少が起こった。

池田市と山口県を比較すると、池田市は面積22平方キロで人口約10万人。出生者は631人。高齢化率27%。山口県は人口126万人で、15年で20万人減少した。大阪で880万人が810万人になると意味が違う。高齢化率は35%であり、高い高齢化率で一気に人口が減っていく。山口では私立大学を公立化し、行政が若者の確保に努めている。しかし、全国で年間の子どもが生まれる数が70万人を切った。大学も生き残れなくなる。

山口市の小学校も児童数が減少しているが、減少に格差が見られる。19万人の人口がある山口市で在校児童の一番多いところで800人、一番少ないところで13人。それから18人。19人。22人・・・そういう数字になる。池田市の場合（ほそごうを入れていないが）、6～500人から200人の間になっている。池田市でも格差があるが、山口市と比べると数字が全く違う。ここが大きな問題になる。

2008年に人口が自然減に転じた。ここから一気に下っていく。人口減少の歯止めが急がれるのだが、対策がうまくいかなかった。それはなぜかという、都市と地方とで人口減少に格差があるからだ。山口を見てみると人口の減り方に格差がある。それが重要であり、その格差に応じた対策をしていかななくてはならない。

山口市で小学校の対応をしなければならないのだが、小学校を合併するにしても池田市のように市域が狭ければよいが、山口市は池田市の50倍の面積だ。池田市には2つの格差がある。でもその格差は低い。山口とは違い、そういうところを加味して考えていくと、いろんなことが見えてくる。

人口が急激に減っており、自分たちが方向性、どうまちづくりをすべきか早く決めなければ対処ができない。思っ以上減っており、急を要することである。

人口0に向かって進んでいる。一旦、急激に進むと緩やかな減少では済まない。

都市学では、都市は地方によって支えられているといわれている。池田市も都市に含まれる。地方が潰れたら都市も潰れる。地方がどんどん弱くなって生活できなくなって、人がどんどん都市へ出ていく。地方が潰れたら食糧生産などで都市が潰れる。ただ都市の人はまだイメージとして持っていない。これから、地方で起こっていることが都市でも起こってくる。

**閉会**